2014年 12月20日

JACET-Chubu Newsletter

一般社団法人大学英語教育学会中部支部　No. 33

中部支部大会報告

支部長　大石晴美
(岐阜聖徳学園大学)

日頃より、JACET 中部支部の活動にご理解とご協力賜り感謝申し上げます。2014 年も中部支部はさまざまな学術交流をいたしました。小中高大の先生方、大学院生、出版社などの多くの方々に本支部の活動にご興味を持っていただき光栄に存じます。

2014 年 6 月 7 日(土)には、椙山女学園大学において、「第 30 回中部支部大会」を開催しました。大会テーマは、「第二言語習得論からみた大学英語教育ー量的アプローチと質的アプローチの共存ー」で、第二言語習得論と大学英語教育について、二つの研究手法に基づき、特別講演とシンポジウムで議論を繰り広げました。今回は 30 回という節目の年ということもあり、講演会やパネルディスカッションに、英語教育、言語学分野の大御所をお招きしました。特別講演で、村野井仁先生(東北学院大学)は、意味ある事柄について学び、考え、そして他者とつながる機会を作り出すことが、第二言語能力を育てる上で最も効果的な指導であることをお話しくださいました。また、シンポジウムのパネリストとして第二言語習得論の第一線でご活躍の佐々木みゆき先生（名古屋市立大学)、柳瀬陽介先生（広島大学)、竹内理先生（関西大学)、をお迎えし、現在の大学英語教育のあるべき姿について、量的、質的研究分野から、研究手法の相違を超えて、両手法のブリッジとなる有効な議論が展開しました。佐々木先生は、長期間にわたって研究を進めておられるライティングの質的、量的、双方の立場から重要性をお話しされ、柳瀬先生は、量的、質的研究について、「主観的客観性」という面から、英語教育研究を進めていくことを強調されました。竹内先生は、研究とは「個人内や仲間内で完結するような営み」ではなく、公共性があるものでなければいけないとお話しされました。SLA

目　次

中部支部大会
大石晴美　1頁

講演会報告
松本青也氏「大学英語教育が目指すべきもの」
大森裕實　2頁

海外学会の動向
AILA World Congress 2014
倉橋洋子　4頁

研究会紹介
多文化共生と英語教育研究会
小宮富子　5頁

会員著書紹介
藤原康弘著『国際英語としての「日本英語」のコーパス研究ー日本の英語教育の目標』
小宮富子　6頁

追悼記事
小野経男先生を偲ぶ　吉川　寛　7頁

掲示板　7頁
事務局より　8頁

研究の先に、効果的な授業実践を視野に入れて日々模索する研究者、指導者そして、学習者にとって、非常に有益な示唆が得られたと感じます。夕刻の懇親会でも宴をともにしながら、講演会、シンポジウムで解決できなかった疑問やコメントについて、講師やパネリストの先生方や様々な立場の方々からお話を伺うことができました。

大会の開催にあたり、会場校の関係者の方々、準備に携わってくださいました支部役員を含め会員皆様のご協力とご尽力に心より感謝申し上げます。多方面から多数の参加者をお迎えし盛況な大会となりましたことをここにご報告とお礼申し上げます。最後に、本大会に後援をいただいた愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、岐阜県教育委員会に感謝申し上げます。協賛業者の方々から出版物の展示も豊富にそろえていただきご協力に感謝申し上げます。また、会場施設を提供していただいた椙山女学園大学およびスタッフの方々に心より御礼申し上げます。また、同時開催となりましたJALTCALLのスタッフの方々からのご協力にも感謝申し上げます。大学英語教育学会中部支部の発展とともに、皆様と学術交流ができましたこと幸いに存じます。ありがとうございました。

講演会報告

2014年度秋季定例研究会
「大学英語教育が目指すべきもの」
松本青也
(愛知淑徳大学名誉教授)
2014年10月11日
(於　名城大学MSAT)

これほどエネルギッシュにして、90分間にわたり聴衆の耳目を惹きつけて已まない講演は、世間にそれほど多くはない。講師にお招きした松本青也氏はLET学会の中部支部長や副会長を歴任された斯界の重鎮ではあるが、その弁舌は軽快そのものであった。しかし、それとは対照的に、周到に準備されたことを窺わせる講演内容は、本学会に身をおく一同の蒙を啓く斬新な視点が満載で、決して軽いものではなかったのである。

同氏の講演内容は、7部構成になっており、その内容を順に要約すると次のようになる。

I. 的外れの外国語教育政策――「21世紀日本の構想懇談会(2000.1)」「〈英語が使える日本人〉の育成のための戦略構想(2002.7)」「同行動計画(2003.3)」「英語教育改革総合プラン(2009)」「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策(2011.6)」「大学

南雲堂の英語テキスト
多読とライティングの『総合時事英語テキスト』が登場！　2013年度新刊　木村友保／佐藤雄大／浅井恭子 編著
Better Reading, Better Writing with NHK WORLD NEWS　B5判 120頁 CD付 2,100円(税込) 全28章 各章4ページ Review test有
『NHKワールド・ニュースで学ぶ日本と世界の姿』―多読とライティングでその深層に迫る―　多読とライティングを通して時事、放送英語の捉え方をマスター！
POWER-UPシリーズ
▶ Power-Up English <上級編>／<中級編> 2013年度 改訂新版登場！／<基礎編> ▶ Forerunner to Power-Up English <入門編>も好評！
コミュニケーションに必要な英語の基礎力養成に！ JACETリスニング研究会編　B5判 1,995円(税込)～
片野田浩子先生 大好評テキスト<TOEIC>シリーズ！
A Shorter Course in TOEIC Test Reading 450, 550, 650　K(カタノダ)メソッドによる『5分間』新TOEICテスト・リーディングシリーズ
A Shorter Course in TOEIC Test Listening 450, 550, 650　K(カタノダ)メソッドによる『5分間』新TOEICテスト・リスニングシリーズ
サブテキストに！ 半期用教材として！ 使い方多様！ レベルに合ったスコアー別に！ 大好評『5分間』シリーズ　B5判 各735円(税込)
〒162-0801 東京都新宿区山吹町361 TEL: 03-3268-2311・FAX: 03-3269-2486・E-mail: nanundo@post.email.ne.jp・URL: http://www.nanun-do.co.jp/

入試の受験資格としての TOEFL 導入の提言(2013)」「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画(2013.12)」「Super Global High School 56 指定(2014)/ Super Global University 37 採択(2014)」等の資料を基礎に、外国語教育政策の問題点を指摘［①高すぎる目標設定=英語教育がエリート選抜の手段と化す；②英語以外にも多様な言語・文化を学ぶ機会を保障していない；③教育行政は専門家集団に委ねないと場当たり的になる；等々］。II. 英語教育は時代の変化にうまく対応できていない――①20 世紀に英語コミュニケーション能力を育成できなかったのは英語教育の責任ではない（2013 年度 TOEFL iBT スコアは世界 166 国中 135 位だが、日常的に英語を使う機会や必要性を痛感しなかったため Productive Skills が育成されなかった）ことを内省し、②21 世紀には、意欲さえあれば、ICT を活用することにより高度な英語コミュニケーション能力を育成できる（グローバル化と ICT の発達で英語コミュニケーションの必要性を痛感し、ESL Online 化を促進すると同時に、英語習得の難しさの軽減化を図ることができる）ことを指摘。III. 英語教育は諸刃の剣？――実用英語推進派（実利志向で多数派）と反英語帝国主義派（人権志向で少数派）との対立構図を生み出した。前者では、楽天をはじめとする企業の TOEIC 重視型の国際対話能力の必要性が強調される（これは英語公用論化に通じる）が、それは英語教育がエリート教育に陥る可能性も内包していることに留意しておかねばならない。他方、後者では、英語教育が育む偏りのある精神構造（英語母語話者が一流で、自分はいつまでたっても二流といった自虐観）を問題とする。IV. 対立を超える学校外国語教育の理念とは――教育基本法第 1 条に掲げられた教育の目的は「人格の完成」にあり、日本における学校外国語教育の本質的機能は「異質なものに触れさせる」ことにあることを意識すべきである。V. 教室を「ことば」への知的好奇心が溢れ、メタ認知能力が育つ場に――音声・発想・意味・価値の点で異質なものに触れることで生まれる「ことばと文化への深い理解と洞察」を均しく涵養し、それを基盤とする外国語コミュニケーション能力の開発は希望者に選択的に行なうのがよい。VI. 外国語コミュニケーション能力の育成――①学習ストラテジーを与えること；②自信を与えること；③欲求を持たせることが重要であり、ICT の多様な機能を活用した効果的タスクを課したり、国際協働プロジェクトに参加するなど、知的好奇心を

成 美 堂 2014 年 *Seibido New Publications* 新 刊

Supreme Reading 2	1,900 円(税別)	AFP World News Report 2	2,500 円(税別)
The Heart of Britain	1,900 円(税別)	World Wide English on DVD –Volume 1 -	2,400 円(税別)
Trend Watching	1,900 円(税別)	VOA News Clip Collection	2,400 円(税別)
Good Choice –Law in Daily Life-	1,900 円(税別)	Meet the World –English throughNewspapers- 2014	2,000 円(税別)
Our Place in the Universe	1,900 円(税別)	Making Sense of the World –Wisdom through Knowledge-	1,900 円(税別)
English Challenger	1,900 円(税別)		
Genre Approach to Paragraph Writing	2,000 円(税別)		
Overall Skills for the TOEIC®Test	2,200 円(税別)		
Valuable Clues for the TOEIC®Test	2,600 円(税別)		

株式会社 成 美 堂 SEIBIDO
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-22
TEL 03-3291-2261 / FAX 03-3293-5490
URL https://www.seibido.co.jp e-mail: seibido@seibido.co.jp

向上させることが可能である。VII. 提言：日本人の言語をどうするのか――①言語教育理念の再構築（誰に、なぜ、どんな言語能力を、どのようにつけるのか）；②多言語・多文化共生社会実現のための言語教育（「母語に対する誇りと言語権を与える母語教育」「言語の思考の幅を豊かに広げる外国語教育」「集中的な外国語技能教育による自律的学習の促進」）；③新しい学校外国語教育素案の提示で締め括られた。

同氏の講演内容は、同氏が長年考究してきた「異質な文化間におけるコミュニケーションの本質とは何か」という理論に裏付けられた蘊蓄に富んだものであった。その理論について詳しくは、『日米文化の特質』（1994 / 2014［新版］）を参照されたい。とにかく、「自分の日々の授業は、受講生に幸福感（英語を学んでよかったという感覚）を与えているだろうか」と自己内省しないではいられない刺激が快い講演であったことを特記しておきたい。

大森裕實（愛知県立大学）

海外学界の動向

AILA World Congress 2014について

AILA 2014は、2014年8月10日から15日までオーストラリアのブリスベーン・コンベンション・エグジビションセンターにて開催された。1964年に最初に開催されてから50年に当たるこの会議には、1080の口頭発表、222のポスター、32のワークショップ、56のシンポジウムが選抜された。“One World・Many Languages”をテーマに掲げた本大会に相応しい多国籍、多文化の人々の参加であった。特に、日本人の参加が400人以上に及んだことは特記に値する。

オープニングセレモニーはNicholas Evans氏による記念講演“Hearing the Inside: The Landscape of Meaning in Australian Languages”で始まった。Evans氏は、オーストラリア先住民の言語と世界の他の地域の言語のsemantic systemにおける差を、言語の多様性にみられるようなオーストラリア先住民の文化的な面を紹介して語った。Evans氏によれば、もし先住民の言語の文化的遺産を十分に理解したならば、この研究は「内面に耳を傾ける」ことがいかに重要であるかということに導いていく。これは、Spitzer (1947)の言語の「意味は文化風土の最適なバロメーター」に由来している。移民がますます増加してきている多言語・多文化のオーストラリアを知る上でも興味深い講演であった。

他の研究発表、ポスター、シンポジウム等のテーマは、第二言語習得論、バイリンガル、言語と文化等、極めて多岐に渡り、世界大会に相応しいものであった。

ちなみに、筆者はポスターセッションにお

いて、"The Emotional Barriers to Japanese People When Communicating in English"の題で発表した。研究内容は、日本人が英語で話すときの緊張度は、Kachruの提唱する英語モデルのExpanding Circleの中で日本人特有のものがあるかどうか、またどのサークルの人々と話すときにより緊張するか、その原因は何かを調査したものの報告である。このテーマに関心を抱いている研究者が予想外に多くおり、意見交換ができたことが極めて有益であった。

倉橋洋子（東海学園大学）

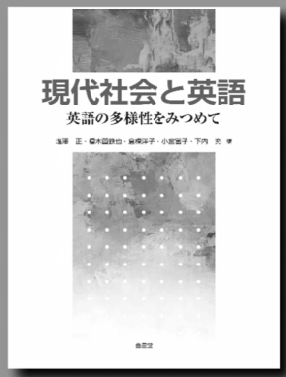
研究会紹介

多文化共生と英語教育研究会

「多文化共生と英語教育研究会」は前身の「言語アセスメント研究会」を閉会して2014年4月に新たに設置された研究会です。しかし新旧研究会の関心領域は大いに重なっており、「『多文化・多言語社会』『言語政策』『国際英語論』『言語アセスメント』をキーワードにグローバル化した現代社会のニーズに直結した視点で日本の大学英語教育を捉えなおす」という趣旨において、共通性と継続性をもっています。旧研究会が「言語アセスメント」という「研究手法」に焦点を当てていたのに対し、新研究会はその「研究内容」により焦点を当てている点に相違があり、活動内容の一層の透明化を図ることを意図して設置されました。

本研究会では、多文化共生時代の外国語教育や英語教育のあり方について、多角的なアセスメントと提言を行ってきており、2014年3月1日には、中部支部定例研究会にて、「観光と英語教育：現状のアセスメントと課題」と題する研究会発表を行い、8月のJACET全国大会では「観光地における多言語サービスの実態と大学観光英語教育のアセスメント」と題してポスター発表を行いました。「内なる国際化への対応と英語教育」が近年の本研究会の中心テーマとなっており、国内における多文化多言語化がどの程度進んでいるのか、英語教育はどのような方法で内なる国際化に対応すべきか、社会言語学や言語政策の視点と関連づけた研究を実施しています。全国大会では「観光英語の現状」をめぐる分析と提言に例年以上に多くの方々が関心を寄せて下さいました。「観光英語」をカリキュラムに取り入れる大学が増えていることも背景にあるのではないかと感じています。

今後の活動としては、多文化共生と英語教育をテーマとする出版物をまとめること、多文化共生に関する総合的な調査活動を実施すること、などが当面の目標です。どのメンバー



現代社会と英語
英語の多様性をみつめて
塩澤正・榎木薗鉄也・倉橋洋子・小宮富子・下内充　編
¥3,780(税込)　A5上製判　389pp.　ISBN978-4-7647-1135-8
英語教育界で注目されつつある「国際英語論」の理論と実践に関する論文を中心に、国内・外の第一線で活躍する骨太の研究者たちの言語学と英語教育に関する最新の知見を紹介。第二言語習得論、脳神経言語学、文化論、コミュニケーション論、コーパス言語学などの領域から、国際共通語としての英語とそのあり方を考察する。
KINSEIDO 金星堂
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-21
TEL. 03 (3263) 3828 / FAX 03 (3263) 0716
e-mail: text@kinsei-do.co.jp URL: http://www.kinsei-do.co.jp

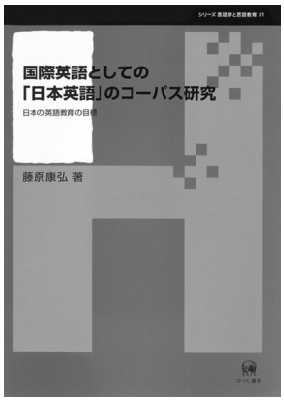
も例外なく多忙であり、京都や宮崎など遠方のメンバーも参加しているため、なかなか全員そろっての会合が開催できないことが悩みではありますが、メールなども駆使しつつ、怠惰な気持ちを引き締め、互いの研究意欲を刺激しあえるところが研究会の良さであると感じています。

小宮富子（岡崎女子大学）

会員著書紹介

藤原康弘　著

『国際英語としての「日本英語」のコーパス研究―日本の英語教育の目標』
（シリーズ言語学と言語教育 31）



ひつじ書房　2014 年
7560 円

支部役員の藤原康弘先生が「国際英語としての『日本英語』のコーパス研究―日本の英語教育の目標」を 2014 年 2 月に上梓された。優れた本であることは承知していたが、今回、再度精読する機会を得て、その研究・教育上の重要性をあらためて実感することとなった。国際英語としての「日本英語」をめぐる様々な課題を著者は緻密に整理分析し、独自の工夫を用いたコーパスによる実証研究に結実させ、具体的成果を抽出することに成功している。コーパス言語学や国際英語分野の諸理論・概念・用語の定義を確認し、膨大な先行研究の特色や課題を分析する中で、可能な限り実証的に論証を進めようとする姿勢は手堅く、著者の誠実さが感じられる。本書は国際英語や日本英語に関する先端的な研究であると同時に、この分野における今後の「基本文献」になりうるものであると思われる。

構成は 3 部編成になっている。第 1 部ではコーパス言語学や国際英語関連領域に関する学術的背景、「日本英語」と日本人英語使用者の関係、著者オリジナルの日本人英語使用者コーパス（JUCE）の編纂に至る経緯などが取り上げられており、特に「英語学習者」と「英語使用者」の区別や、「使用者コーパス」の編纂における前提的議論の整理分析は説得力のあるものとなっている。第 2 部では、JUCE に基づいて抽出された日本人英語の語彙・談話・語用論上の諸特徴を先行研究と比較しつつ取り挙げ、「日本語から英語への借用」「名詞依存」「代名詞の抑制」「定冠詞の多用」「同一名詞の繰り返しによる定型性」「法助動詞 must 等の多用」などの特徴が論じられている。特に名詞依存・代名詞抑制・定冠詞多用・定型性が日本人英語の名詞句特徴として相互性を持つ共起現象であるという指摘は非常に興味深い。第 3 部では、日本英語の語彙的・談話的・語用論的特徴のまとめと質的分析、第二言語習得における中間言語モデルから多言語能力モデルへのパラダイムシフトの提案、今後の展望を含めた議論の総括がなされている。「日本人英語学習者」の英語と熟達した「日本人英語使用者」の英語特徴が（発展的関連性を持ちつつも）異なっている例として、定冠詞の使用において前者は省略傾向を持ち、後者は多用傾向を持つという指摘は、拙稿筆

者の直観にも一致している。定冠詞の多用は日本人の感覚に根差した表現上の必然性に支えられた英語使用の一例だということになる。

文部科学省の英語教育政策（2003, 2011）や日本学術会議の提言（2010）がすでにEFLからEIL/ELFへと目標言語を転換している（p57）という大変革の中で、教育現場においても“L1-based L2 proficiency”を目指す「多言語能力モデル」への転換が必要且つ有効であるという指摘は、まさに正論であろう。本書は「日本英語」を抽出し同定していくことの社会的・教育的意義への確信に支えられた、合理的実証的であると同時に熱い本でもある。

小宮富子（岡崎女子大学）

追悼記事

小野経男先生を偲ぶ

今年の７月にJACET中部第３代支部長小野経男先生が逝去されました。突然の訃報に接し大変驚いた次第です。亡くなられるまで第一線の教育者、研究者として生涯を全うされた先生に心から敬意を表したいと思います。先生は、名古屋大学を退官後も、名古屋学院大学に移られ大学院外国語学研究科（英語学専攻）の設立に貢献され、更に中部学院大学の学院長として教育者、研究者の育成に尽力されました。また、先生は名著『意外性の英文法』をはじめ数々の著作を出されました。この様に、公人としての先生のご活躍は教育者、研究者としの鑑と言っても過言ではありません。

私人としての小野先生は、沈着、冷静で一見近寄りがたい感じがしますが、実際は誠に優しく温厚な方でした。先生がJACET中部支部長のとき、私は事務担当幹事として先生に仕えました。それで先生とはよく中部支部の運営についての打ち合わせの会合を行ったものでした。ある時など会合が昼食時に亘ってしまいましたが、先生は「これを食べながら打ち合わせを続けましょう。」と言って奥様お手製のサンドイッチを鞄から出されました。先生は私の分まで用意して下さっていました。私は先生の優しさに大感激してサンドイッチを美味しくいただいたことを今でもよく思い出し、先生のお人柄を偲んでいます。

先生がご家庭をこよなく愛されていたことは先生からいただく年賀状から拝察することができます。年賀状には、先生自身だけでなく、家族の方々、愛犬テツ君も含めて、近況が書かれていました。私は毎年楽しく読ませていただきましたがもう来年はいただけないと思うと本当に淋しい気持ちです。

先生との出会いはいつも先生の優しい笑顔と共に思い出されます。心から先生のご冥福をお祈りいたします。

吉川　寛（中京大学）

掲示板

JACET中部支部紀要第13号への掲載論文（学術論文、研究ノート、実践報告、書評）を募集いたします。ふるってご応募ください。締切は2015年9月10日です。詳細は支部ホームページをご覧ください。

締切：　2015年9月10日

掲載料：刷り上がり1ページにつき1000円の割合となります。

長さ：　論文15ページ、実践報告・研究ノート10ページ、書評5ページ程度

注意：　投稿方法や投稿先が変更される可能性があります。投稿規定詳細とあわせて、ホームページでご確認ください。

問合せ：JACET 中部支部事務局

中部支部紀要編集委員会

事務局より

◆2014 年度春季定例研究会のお知らせ

2014 年度春季定例研究会を 2015 年 2 月 28 日（土）に名古屋工業大学で行います。詳細は JACET 中部支部をご覧下さい。

◆新入会員のご紹介

2014 年 5 月から 11 月までの中部支部所属新入会員は以下の方々です。（敬称略、入会順）
伊達正起（福井大学）、Taylor, James（University of Leeds(大学院生)）、半井典子（北陸大学薬学部(非常勤)、山見由紀子（中京大学国際英語学研究科(大学院生)）、大城直人（沖縄キリスト教学院大学）、Clements, Peter（静岡大学）、Farooq, Mohammad Umar（名古屋学芸大学）、梁　志鋭（名古屋大学）、山田昇司（朝日大学経営学部）

◆支部長選挙開票結果

12 月 6 日（土）に愛知大学で開催された第 2 回中部支部総会で、2014 年度中部支部長選挙の開票結果について報告がありました。

11 月 20 日（木）に投票を締切り、11 月 29 日（土）に（役員会に先立って）田中春美選挙管理委員長のもとに開票が行なわれました。開票結果は、投票数 107 票、大森裕實候補 59 票、鈴木達也候補 43 票、白票 1 票、無効 4 票で、次期支部長は大森裕實氏（愛知県立大学）となりました。副支部長は鈴木達也氏（南山大学）です。任期は 2 年となります。

◆2014 年度　第 2 回中部支部総会報告

上記中部支部総会で、2015 年度事業計画及び予算案・人事案が了承されました。正式就任は 2015 年 6 月定時社員総会後、任期は 2 年になります。

2015 年度　中部支部役員（敬称略）

顧問	田中春美（南山大学名誉教授）
理事	大森裕實（愛知県立大学）、鈴木達也（南山大学）
支部長	大森裕實（愛知県立大学）
副支部長	鈴木達也（南山大学）
支部事務局幹事	佐藤雄大（名古屋外国語大学）
支部会計幹事	今井隆夫（愛知教育大学）

支部研究企画委員
石川有香（名古屋工業大学）、伊東田恵（豊田工業大学）、今井隆夫（愛知教育大学）、岩城奈巳（名古屋大学）、榎木薗鉄也（中京大学）、大石晴美（岐阜聖徳学園大学）、大森裕實（愛知県立大学）、岡戸浩子（名城大学）、片岡邦好（愛知大学）、北尾泰幸（愛知大学）、木村友保（名古屋外国語大学）、リーア・ギルナー（文京学院大学）、倉橋洋子（東海学園大学）、小宮富子（岡崎女子大学）、佐藤雄大（名古屋外国語大学）、塩澤　正（中部大学）、鈴木達也(南山大学)、津田早苗（東海学園大学）、馬場景子（中部大学）、藤原康弘（愛知教育大学）、村田泰美（名城大学）、吉川　寛（中京大学）

◆2015 年度 JACET 国際大会ご案内

第 54 回（2015 年度）国際大会は 2015 年 8 月 29 日（土）～ 31 日（月）に鹿児島大学郡元キャンパスにて開催されます。大会テーマは以下のとおりです。

「グローバル時代の異文化間コミュニケーション能力と英語教育」
Intercultural Communicative Competence and English Language Education in a Globalized World

◆事務局移転のお知らせ

2015 年 4 月より中部支部事務局は名古屋外国語大学佐藤雄大研究室内に移転します。

〒 470-0197　愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57
名古屋外国語大学佐藤雄大研究室内
E-mail: t-sato@nufs.ac.jp

◆住所変更届提出のお願い

支部会員のみなさまに、紀要や newsletter などの郵便物をお届けできない事例が増えています。お手数ですが、転居の際には、JACET 本部事務局と中部支部事務局の両方に、住所変更届をご提出ください。

詳細は、以下のサイトをご覧ください。
JACET 中部支部ホームページ
http://www.jacet-chubu.org/

◆ニューズレターは会員の皆様のフォーラムです。ご意見、ご要望等は事務局までメールでお送りください。投稿も歓迎いたします。

中部支部事務局
〒 466-8555 名古屋市昭和区御器所町
名古屋工業大学石川有香研究室内
E-mail ishikawa.yuka@nitech.ac.jp

***JACET-Chubu Newsletter* No. 33**
2014 年 12 月 20 日発行
発行者：　一般社団法人大学英語教育学会中部支部
大石晴美
編集者：　石川有香
佐藤雄大　室　淳子